

1984年9月10日

(1) 備陽史探訪

備陽史探訪

NO.2

発行 備陽史探訪の会

山口県の歴史

◎特集◎

山口県の歴史

萩への一泊旅行へ行く為、山口県の歴史を校訂して、再認識と、誤解の無い歴史観を持つ為、此提を討せした。

山口県古代史 七森義人

旧石器時代

山口市美濃ヶ浜遺跡(中期)。幸崎遺跡(後晩期)。大形のナイフ形石器とそれに伴う刃器状切片の幸崎I文化と、小形のナイフ形石器や台形石器、石刀、核、細石刃の幸崎II文化に分けられる。石器の材料に水晶が多い事が特色である。

宇部市常盤池遺跡(後晩期)。豊浦郡豊浦町磯上遺跡(前期)。石器製造跡、大型の水晶塊や旧石器が堅穴の中に多量に集積されているのは比遺跡のみ。

縄文時代

柳井市黒島浜遺跡(後期)。与瀬遺跡(後期)。安芸難造蓋地運動に伴う地盤累次幼の立証の遺跡。

平生町岩田遺跡(後晩期)。末期墓制の資料、原始農耕を暗示する石鎌状、石鏃らしき石器の出土。宇部市月崎遺跡。各期の土器を有し、瀬戸内系と九州系の土器文化を層序と結んで編年できる。下関市神田遺跡(後期)。貯蔵穴らしき物があり、原始農耕を示唆する。

弥生時代

熊毛郡熊毛町田山遺跡(中後末期)。集落を取り巻く溝状施設があり、防備が呪術的性格がある。光市田原遺跡(中後末期)。土器と溝に集落が囲まれて防衛的意図を持っている。

下松市宮原遺跡。土壌墓群の広い墓域を取り囲む溝状施設があり、前期から墓式を画する施設。山口市吉田遺跡。農民家屋建築史の基礎資料。下関市綾羅木岬台地遺跡。多くの土塚墓と、速賀川以東の東北部九州の文化に属し、中国、朝鮮

直系の遺物を含む。権衆浜遺跡(前中初期)。内都主体や副葬品が示す墓制と文化は北部九州との共通性が強く、起源を朝鮮半島に求める。

豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡(前中初期)。渡来民が骨の身長が縄文人、現代人よりも高く、渡来民がその混血民たちの墓地と思われる。萩市宮の馬場遺跡(前中初期)。九州系の土器文化が日本海沿いに東方に波及したルーツを示すと共

1984年 9月10日

(2) 備陽史探訪

に、瀬戸内系、山陰系が交流した遺跡。

古墳時代

環状周東町北方古墳、後期円墳、横穴式石室。環状町後山古墳、中期、方墳か方形周溝墓、

柳井市茶白山古墳、前期末、前方後円墳、竪穴式石室か、直径44cmの方形神鏡は日本最大の出土鏡である。

能毛郡平生町白鳥古墳、中期、前方後円墳、山口県最大。田布施町後井古墳、後期、円墳、二墓あり、一号の石室は県下最大の横穴式石室。

下松市宮ノ洲古墳、四面の袖鏡出土。新南陽市竹島古墳、畿内系の前方後円墳。防府市大日古墳、凝灰岩製割板式冢形石棺。

山口市美濃ヶ浜遺跡、土器製埴土。山口市厚狭郡山陽町長光寺山古墳、畿内系古墳。豊浦郡豊浦町甲山古墳群、青井古墳群、海岸崖上に農耕地は無く海人関係か。

萩市見島古墳群、200基近い横石塚、東北の武人が持つ藤手刀が出土、渡島した防人の存在、石城山の土器より出土した土師器と類似した土師器の出土により、神籬石の築城年代、30体以上の武人、貨鏡の割片等により新羅進攻に備えて渡島し前線基地に駐屯した武人集団であろう。

奈良時代

山陽道、石国、野口、周防、生屋、平野、勝間、八幡、賀宝、阿津、厚狭、植生、宅賀、臨門

の名塚がある。

周防国府、防府市、古代の文化中心地であるが、勢力が強すぎた為、交通の要衝である此地に国府を置いた。

長門国府、下関市、長府にあるとされている。豊浦宮、下関市、忌宮神社境内地周辺とされている。

周防鑄銭司、山口市、長門鑄銭所、下関市和銅元年(708)より貨幣の鑄造を始め、9世紀中には周防のみとなった。

石垣、空堀等があり、周田約25km。築城年代平安時代以前、天智期以降、大和政権継承政権が新羅等の外敵に備えた城。

長門城、下関市、唐櫃山、茶白山、火の山、重王山等、位置は不明、天智天皇四年に築城。

日ノ山、宇都市、烽跡と推定される。標高140M。焼火神社が祀られ、航海者の目標となる。

山口県は周防国と長門国に分れて、周防とい

う名がどこから来たかは不明であるが、長門は元

穴門と呼ばれ、下関と門司が狭まると、外海と内海

と結ぶ水門の様に見える。此名がいついた。

古代の交通は瀬戸内海を幹線とし、国生み神話に出てくる大勢麻流別の島は周防大島である。

防長の大守大内氏

田口義之

中世防長二州に勢力を振った豪族は大内氏です。大内氏は「多々良」姓で聖徳太子の時代、百済国の聖明王の子孫聖太子が日本に来て、聖徳太子から周防国多々良の地を与へられ、以後代々多々良の地に住し、在名を取って多々良姓を名乗ったそうです。事の信疑ははつきりしません。「多々良公」の名は奈良時代の文書に見えますので、信じて良いと思われれます。この多々良氏は奈良平安を通じて周防国に勢力を拡大して行きましたが、その一流は今の山口市近郊の「大内」村に土着しました。これが大内氏の始まりです。大内氏は源平合戦では源氏に味方しましたが鎌倉時代には御家人

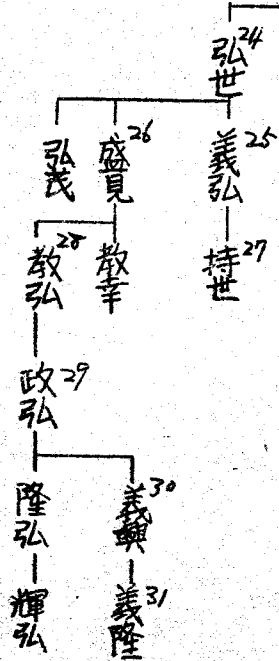
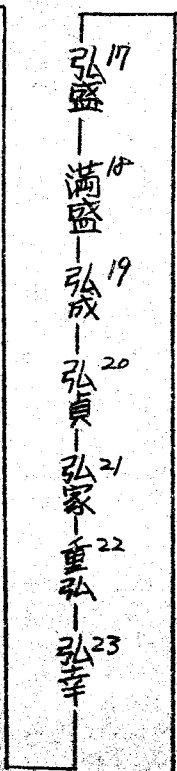
にはならず、在庁官人の最有力者として「周防権介」の地位を世襲し、まづ幕府体制の外側で勢力を拡大していったようです。南北朝時代になると大内氏は時代の主役として歴史の表面におどり出ます。大内弘世は始め周防の守護に任じられていますが、長門守護厚東氏が足利氏に味方したのに対抗して南朝方に属し、厚東氏と戦っていきす。しかし、厚東氏を滅ぼすと足利将軍と取り引きして、足利幕府に服属する見返りとして防長兩國の領有を承認してもらったことに成功します。こうして大内氏は防長の守護大名として、その地位を確立します。更にその子義弘の代になりますと、豊前筑前、石見、和泉、紀伊の五ヶ国を加え、七ヶ国の大守として最有力の大名となります。しかし、時の将軍足利義満はこの大内氏の強勢を喜ば

ず、応永6年(1399)、義弘を排斥して堀(崎)に攻め滅ぼします(応永の乱)。この時、義弘の末弟弘茂は義満に降伏して兄の遺領防長二州を奉へられたのですが、国元には次第の盛見が兄の遺命を守って領国を固めていました。それで盛見弘茂の兄弟間で戦いが起ったのですが、盛見は四周皆敵の中で良く戦い、三年後の応永9年には弘茂を領国外に追放してしまします。そして幕府も盛見を正式な守護として認めざる得なくなりました。こうして大内氏は「応永の乱」の敗北にもかゝらず存続することができたわけです。

この後、大内氏は外国貿易で利潤を上げる等して強大になり、室町末期の大内政弘、義興の時代には京都に進出して、幕政を左右する程の権勢を振いきました。

しかし、義興の子義隆は文弱におぼれて政治をかえり見ず、天文20年(1551)9月、家臣の陶晴賢の反逆にあつて深川(長門市)大寧寺のつゆと消え、ここに大内氏の正統はあつたけなく滅んだのです。

琳聖太子(12代略) 貞長 貞成 盛房



大内氏略系図

※数字は代数です。



江戸期の毛利氏
吉田和隆

江戸期の毛利氏。あんまり面白くないんである。華々しい合戦も赤穂浪士みたいな仇討ちもないし、大体太平の世は退屈なんです。中公版日本の歴史でも、この辺の巻は売れないうたい。
それはともかく、毛利氏は、古の事は古い家柄で、遠く鎌倉時代の御家人大江氏の一族が、はるばる西へ下って吉田の郡山城に住み着いたのが始まりです。その後の歴史はあまりささなく、西国の片田舎の一土豪としてくすぶってました。
えれが動乱の戦国時代、中国地方で尼子氏と大内氏と、二人の巨人が争い、共に傷ついた時に現われたのが毛利元就。最初に大

内を乗って取った陶を破り、返す刀で尼子を滅し、中国を征覇しました。この辺遙か西方で東ローマ帝国とササニ朝ペルシアが、長い無益な抗争に疲れていった時、辺境アラビアの地からあこたイスラム帝国に似ています。彼モハメットもペルシアを滅し、ローマを北方に追い、一大帝国を築きましたか、彼も貴族の出身。話がえれました。ともかくその後、毛利氏は守勢に回り、ドラマや映画でも端役、秀吉に高松城水攻めでまんまとだまされるアホな役が多いようです。そのあげく、関ヶ原の戦い。どっちつかずの態度で山の上から戦いを見物。領国ごとすり前されて防長二国三十七万石の中大名に。毛利が人気がないのは武田の悲しい最後、上杉のいさぎ良さみたいなのがまるでなく、関ヶ原の不完全燃焼ぶりもあるのではなかつたか。

ともかく中国地方の片隈に追いつたのは何故か。初めは藩士の給料を

カットしたり、儉約に勤めました。借金は減るどころか増えるばかり。このあたり人勸を凍結したり値切つて、国民にいい格好をして、今の政府と同じような物である。根本的を解決にちよともなつていなければ、役人のやる気を失くさせ、有秀を若者はほとんど民間に逃げて行つていたのである。

それらを悟つた長州藩のした事は、事業をおこす事でした。撫育所という商工課を拡大して、独立採算にしたような役所を作り、ここに様々の営利事業を始めさせたのです。製塩業の振興、港湾の整備、倉庫業、廻船への金融、製紙業の育成等々。

特に「下関越荷方」といふ役所は、下関に入ると廻船の積荷を拒当に金融をしたり、倉庫を貸したりと、役所の枠を越へたような業務を行つていました。その為地の利が良し、下関で廻船は積荷をおろし、ここで希望の品を置く、帰るよ

うになりました。これ等の事業の為撫育方の資金は増え、一方で、そのいくらかは一般会計に回され、藩士の生活をお救いしました。要は人勸のカット等という姑息を手段は百害あつて一利なし、英智を絞つて大いに事業をおこすべしとの事です。オンマン。

たのめは藩士の給料をカットしたり、儉約に勤めました。借金は減るどころか増えるばかり。このあたり人勸を凍結したり値切つて、国民にいい格好をして、今の政府と同じような物である。根本的を解決にちよともなつていなければ、役人のやる気を失くさせ、有秀を若者はほとんど民間に逃げて行つていたのである。

それらを悟つた長州藩のした事は、事業をおこす事でした。撫育所という商工課を拡大して、独立採算にしたような役所を作り、ここに様々の営利事業を始めさせたのです。製塩業の振興、港湾の整備、倉庫業、廻船への金融、製紙業の育成等々。

特に「下関越荷方」といふ役所は、下関に入ると廻船の積荷を拒当に金融をしたり、倉庫を貸したりと、役所の枠を越へたような業務を行つていました。その為地の利が良し、下関で廻船は積荷をおろし、ここで希望の品を置く、帰るよ

うになりました。これ等の事業の為撫育方の資金は増え、一方で、そのいくらかは一般会計に回され、藩士の生活をお救いしました。要は人勸のカット等という姑息を手段は百害あつて一利なし、英智を絞つて大いに事業をおこすべしとの事です。オンマン。

添うて嬉しい奇兵隊

—長州奇兵隊の史的意味— 粟田東口

奇兵隊についてその栄光の側面のみ語る気はさらさらない。私が誇りたいのはその成立の意味と敗北過程である。「奇兵」とは「正兵(正規軍)」でないものも意味し一般に下級武士農民その他推多階級の混成軍であるが、長州藩ではこれらも諸隊しと呼び奇兵隊の他こういって諸隊は十数ありある。さらには諸隊というものは幕末期全口動にも無数の発生した。中には「勤皇のバスに乗り遅れるな」と藩の上層部が組織したものも多かるうがそれととも民衆の一定程度の自発的意志というものの介在を考へなければ説明できないものである。決して「生活」の次元から思考を離陸させないものをして「民衆」と名付けるなら、この民衆の政治過程への参加は彼らをしての当初より熱しい矛盾の内たたまき返すにはおかない。奇兵隊の成立とはほぼ同じ時期孝兵し「南東奇兵隊」とも呼ばれる水戸天狗党の田中意蔵隊、映画「赤毛」でおなじみ「ニセ官軍」し「赤報隊」などは最も激しく戦ったが故に消耗また激しく着感した。奇兵隊また然りである。

奇兵隊の成立も天保二年長州全藩を席捲した「天保の大一揆」に見られる民衆の自己解放のエネルギーの空想と聞かせて語る人は多い。確かた天保大一揆し奇兵隊結成し脱隊兵駆動と並へてみると、民衆のエネルギーが時代状況とのかちみこつた方向性を得、しかしその志が駆動として上手

く作用せざれば終には潰えてしまふという構図を見ることが出来る。

奇兵隊は何故たかくも民衆の志を切りとめる器でありえたのか。それは奇兵隊結成の趣意にいう隊員の資格としてはその出身階層を問はずた意志の有無のみを問題にするという平等観念があり、かつオニに自らの惨めな状態を権力構造との南りご問題としたしたという民衆の側の意識の亦草もある。それ故にこそ元々郷土防衛の民兵隊としての奇兵隊が討幕戦の主流になつてゆくのである。かくの如く奇兵隊はその存在自体が封建思想を免脱する反体制的な性格を有するものであったから外口軍隊と戦つてくるうちには良かつたが、時かたつたにつれて従来の専門戦士田中「武士階級」とは互いに相入れぬものとして対立が深まってくる。このことはおりしも元治元年幕府による長州征伐という四境を敵に包圍された状況の中で「謝罪恭順」の保守派と「武備恭順」の急進派との対立として命じた。一つの場合でも保守というものは何か己の存在自体が合法的なものであるのか、それと、この諸隊より始まった。元治元年幕府に赴いたり「デター(山寺孝兵)」がそれである。急進派の内でも自重論の多かつたこの孝兵が最初高杉晋作の呼びかけた応じて集ったものはわずかに80名位であったという。それが一旦軍事行動に移るや、また

の存在自体が合法的なものであるのか、それと、この諸隊より始まった。元治元年幕府に赴いたり「デター(山寺孝兵)」がそれである。急進派の内でも自重論の多かつたこの孝兵が最初高杉晋作の呼びかけた応じて集ったものはわずかに80名位であったという。それが一旦軍事行動に移るや、また

たぐ向に諸隊も遂に巡を止めて呼応し又各地で新た
 なる武装集団が發生し、藩命を無視して金品の提供
 するものなど、全くウソの様な盛り上り方だつた
 には救の正規軍を互倒して急進派による藩論統一
 を成したのである。高杉自身のワーデター成功へ
 の鏡みも確かである。たろうが、その恩恵を認める
 程の変革への期待と支持が民衆の中にあつた。たこと
 にもよると言えよう。

戊辰戦争も終結しぬ郷土凱旋してまた諸隊を待
 ちうけていたものは、維新政府による「兵制改革」
 であつた。戦争中は一兵でもよけいにほしかつた
 兵士であるが、いさ維新が成つてみれば全てを口
 家がかかえるには一寸持て余す人物である。それ
 に近代軍隊に必要な兵士は「変革のエネルギーに
 溢れた兵士などではない。民衆にいつまでも無
 制限に武装を許してはおけなりのだ。結局前備軍
 として千五百人を残しあとは除隊させるというこ
 精選しが着手された。諸隊は上書等によつて何度
 もこの「精選」に抗したか厚き入れられず、終に
 精選にもれたものも中心としておよそ二千八百人
 を持つて脱隊し山口藩庁を武装包圍して回答をせ
 ました。諸隊の要求は資料に残された限りでは一
 除隊となつて浪々の身となるものの処置や死傷者
 不具者に対する恩典等生活レベルからの正当な新
 政府批判であるが、あわせて次の様なものもある
 ことを知つておいてもらいたい。

一、兵制ハ彼ノ長ヲ取り、我ノ短ヲ捨ツルニ異議
 ナシ。従テ洋銃・洋砲・洋服ヲ用フルハ可ナ
 リ。シカシ被髪脱刀ニ至リテハ世上ノ人氣ニモ
 同シ。事其シキニ過ラズ。

これが軍制批判か。すこに高杉もなく、有能な
 指導者もあつた。彼らがかつぎあげたのは口家官使への戦身
 とけたあと、彼らがかつぎあげたのは口家官使への戦身
 排外イデオロギーであつた。たとは浪も出ぬ、何のた
 めの戦いか。何のための犠牲か。多年の尊攘の
 衝きたむくいらるた口家による切り捨てるをもつて
 された時、彼らには満腔の怒りもてしほり出さね
 ばならぬ自身の言葉があつたはずだ。もちろんす
 ぐれたスローガンにせよあれは戦つた勝つてこつた
 他なかつたであらう。しかしもしこれが行なわれ
 ていたならば少くとも新生明治口家への鏡り切り
 込みとはなつていたはずである。

奇兵隊は階級を止揚しなかつた。たじゃないか。た
 だ自身が擬似武士に成り上つただけじゃないか
 という批判もある。形態のみを言ふは私もどう思
 う。しかし個々の想ひの具体相にまで立ち入つて
 見るなら必ずしもどうとばかりは言ひきれまい。
 私自身も違つて違つて想ひつてもつまらぬ思想に現
 してしかこれと語れぬ場合もある。自身の想ひ
 を言葉にまで高めることの何と難しいことか。そ
 れにもまして「言葉」を「行為」で語ることの何と難し
 いことか。私らが現在にこつた、こつた、こつた、こつた、
 から何がを「言葉」としたか、こつた、こつた、こつた、
 にはないのがある。

*冒頭の題は、おそろくは奇兵隊工自身の作つ
 たであろう俗話「向りて恐ろし、見こいやらしい
 添うて悔しい奇兵隊」から借用した。この諺のイ
 メージするやうな奇兵隊像をこつたと思つたの
 だが何故かまるく違つたものがあつた。

続新聞からの史関係記事抜粋

六月

二日 雄略・武烈天皇の宮殿？

一五〇年前の大型遺構・奈良県桜井市(各紙)

三日 長州砲里帰り 仏から二〇年ぶり (甲国)

六日 江戸期の借用証・元庄屋の土蔵から古文書^{1000点}

蔵王町の土屋さん・すでに「土屋家日記」が市重文に

・東明神古墳と古代史 黒岩重吾(朝日)

十三日 縄文前期の「屈葬」人骨ほぼ完全な形(読売)
で出土・滋賀の磯山遺跡(朝日)

十四日 隅丸方形の住居跡出土

有力一族の集落 鉄矢じり片も見つかる

石鎚権現の弥生遺跡(歌室)(読売)

二十日 平家伝説掘り起し 来年通盛神社八百年

祭の沼隈・横倉地区 町委古老から聞き取り調査(甲国)

・白本最古(？)の田舟出土 ほぼ原形を保つ

弥生前期農器具も 米子池ノ内遺跡(読売)

二百 高床式建物に長方形の柱

檀原 藤原宮跡古墳時代の穀物倉庫か

(甲国)

二十五日 江戸末期に種痘の記録

豊前・中津藩領の上下町 (朝日)

二十六日 中世の「ます」六個発見 京都・木津町の旧家

わが国で容積を升ではかるようになったのは大

宝律令(701)で中国の量制度を採用・江戸時代(1624)

京升を公定升にするまで全国で統一されたものはなかった。(読売)

二十八日 弥生後期鉄製のくわ先 岡山の百間川遺跡

から中国地方初の出土 弥生期の鉄製農具

は北九州を中心に数点見つかった(甲国)

二十九日 大和政権種子島を支配 勤務評定の木簡発掘

平城宮跡 律令下の八世紀初め (読売)

・福山城の遺構試掘始まる

博物館建設に備え(読売)

・和智氏と吉舎町の山城 刊行 双三郡吉舎町

・広沢氏という関東武士で1924年 武蔵国より

備後三谷郡の地頭として来る

三十日 鉄刀の金具に鮮やかな竜文様

兵庫県川西市の勝福寺古墳

竜文象眼は他に四例が知られている

(甲国)

七月

二日 史探訪の町へ小径づくり
コースに説明板研究誌も続ける

府中出口博愛会 (朝日)



三日 維新の胎動生き生きと

市重文「土屋家日記」を出版

福山城博物館友の会が解説(説売)

・西外濠の石垣発見 城郭の全容つかむ

福山城調査 (説売)

五日 史実が教科書変えた

姿を消す「大和朝廷」↓「大和政権」と変更

畿内の連合政権と区別

天皇から「大王」へと記述の変更(朝日)

七日 中世のうらみはるか「三原」同士が交歓

三原市と岡山県芳井町の小学生の交流

応永¹⁴⁰⁸三原の桜山城主山名氏の相続

争い下内粉 敗れた方が備中の川手村に

落ち三原村と変えうつり住んだ(説売)

・弥生の大集落跡見つかる 駅家町向永谷

の茜ヶ峠遺跡 高環・ツボも出土

住居中心にミラの炉跡

(説売)

・大津京に法隆寺級寺院

金堂や塔 講堂の跡 推測より大きな都か(朝日)

十三日 住居、倉庫跡八棟を確認 祭祀用のツボや

弥生土器片が大量出土

駅家町大橋石鎚権現遺跡 (説売)

・弥生末期の素文鏡 祭事用・階級分化を証明

竪穴住居址の基壇・基 各種土器・裝飾品見つか

岡山県北房町谷尻遺跡 (甲圖)

十五日 1500年前のワミガメ化石 双三郡君田村で発見

これまで広島県北部からクツラ 20頭分、13種のサ

ズキ、ニシン科の魚類化石発掘 (説売)

十六日 物部氏族長の館跡? 豪壮四面むすレ

天理で発掘 六世紀中期 (説売)

・下関市の馬関まっつり 源平800年祭を来年に

控え源平合戦や武者行列を企画 (説売)

十八日 弥生の銅剣大量出土 島根 荒神各遺跡

(八月末の報道で358本確認) (説売)

・天武天皇へパンダ2頭 1299年前 則天武后が贈る

中国紙報道 (説売)

二十一日 中国の古銭ザクザク 東広島工事現場

唐時代の「開元通宝」など (説売)

最近若者の町として、雑誌によ
 く載るようになった。た、雑誌によ
 た。福山から車をとばす事二十分
 海岸沿いの有料駐車場に車を入れ
 た。ここから先は、バスと地元の
 車以外入れないのだ。五分ごとの
 連絡バスで鞆に着いた。すぐに目
 に飛び込む、仙酔鳥と弁天鳥の美
 しき姿。
 表店で鞆名物の保命酒の入った
 トモカワテルを飲む。ちと甘いな
 鞆の町は観光客で賑わっていた。
 地図を片手の若者達が目立った。
 表店で貰ったガイドマップを手に
 して、町の見物。まづは鞆城。昔
 の鞆城跡は、復興された石垣と土
 堀で囲まれ、二層の櫓を模した歴
 史資料館からは、鞆港の全景と瀬
 戸内海が貝渡せる。中の資料館で
 鞆の長く、華やかな歴史が数々の

資料と展示で理解できた。
 古い街並を保存した美観地区を歩
 こう。民家の多くは食堂、レストラ
 ン、旅館に改造されていた。その中
 の一つに入り、名物の安国寺精進料
 理を食べた。窓からは海と弁天鳥、
 仙酔鳥の二鳥が絵のような姿を見せ
 ていた。夕暮れの鞆港は、由緒ある
 常夜灯に灯が入り、美しい瀬戸の夕
 暮れが見れた。
 古い民家の外観を持つ渡船場から
 仙酔鳥に渡る。今夜はこのユース
 ホステルで一泊だ。隣の国民宿舎は
 団体、家族連れで賑やかだ。晩
 は鯛の生き作り。さすか瀬戸内だ。
 土産は保命酒と鯛の塩焼きを置
 た。鞆か。いっ所だ。今度は彼女と
 来てみよう。
 これは願望を込めた作り話です。
 あしからず。十月は森子さんの担当で、例年は
 鞆に行きます。十四日曜。備用会費100円、非会費100円
 です。詳しくは直ぐ知らせます。左お弁当バス代自前です。

史跡肉谷学校と

備前焼の古里を尋ねて



七月二日備探の会の三二人は岡山県が誇る特別史跡旧肉谷学校と備前焼の古里伊都を訪れた。

旧山陽道どいに井原、矢掛へと進む。矢掛は宿場町として栄えた所、箭田大塚お懐、琴弾の岩など言

備前備にまつわる話がはずむ。高梁川を渡ると昔備路、鬼の城の

ある山なみ左に見ながら、やがて真金の一里塚、山陽道を往交い

して旅人の姿がしのばれる。備前焼について神谷会長より説

明がある、釉薬を用いないのが特長である。大がめなど日常使

われる器を造った。茶道の普及と共に茶陶として有名になった、我

が国六古窯の一つである。

バスは特別史跡肉谷学校につく

藩主池田光政が庶民の子弟教育のために入母屋造りの建物には柱や床にケヤクスノ木を用いた豪華な建築物である。屋根瓦がすべて備前焼で格調高く見事であった。

晝食を陶里苑でとる、京風料理を思わせる福に盛られた和料理に舌づ

つみを打つ。備前焼窯元では陶作家神原貢先生が私達一行を待っておられた。口

場、登り窓の前で詳しい説明をされる。赤松を十日、十三日間昼夜を

分たず焚きつづける、内部は千三百度をこえるそうだと。今日もこの炎に

よる芸術品が赤々と焼かれていた。備前陶芸会館を回り備前焼の歴史

を見学し、焼物の古里伊都の町を後にした。当日は庶民教育と焼物の原

真にふれた思いで大変楽しい一日であつた。

瓜島市 木村 勝

編集部
よりの
おしらせ

「好きですカーフ」
好きです あなたのナマの声

のつけから非常にワサイ標語を吐いてしまっ
「おつ何だ何だこれは」と不審に思われる人もい
るでしょうが実はこれらが編集部が11月号に予定
している「備陽史探訪の会」のたい枚題特集(仮
名)に向けての原稿依頼の月間標語ごとの余りの
無意味さと若干の地方色たよって堂々一位を確得
した作品です。他の作品では例え「ヤッぱりナ
マに限るのう」なんこのもありました。か、ここま
で抽象するのう「なんこのもありました。か、ここま
つかない」ということ「ボツ」なつてしまいました。
冗談はさておき、備陽史探訪の会は本当に性根
を入れかからぬばならぬ。言ってよくが性根
を入れるとは意味のないカラ元氣で景氣づけをす
ることではない。かつて(と言つても一年半位前
だが)月に一度の例会がまちどおしくて仕方のな
い時期が私にもあった。それが今では「エッ、も
う一月たつちやつたのー」という感懐しか持ちえ
ないのはわいびしい限りである。私自身も仕事や
家庭で多忙になつたというところもある。またど
んなに新鮮な企画でも何回も続けられれば飽きか
くるさというさめた意見も直覺の一面は突いてい
るかもしれない。そこで「例会は二月に一度にし
よう」とか「常に新しいことを企画していかなき
や」などと「常になつちやうのさ」ということなる
のだが、本質的な批判を抜きとした改革は単なる
規模縮小か「上すべり現象」を即長するものとし

かない。
そうだと「上すべり」だ。「上すべり症候群」だ。
(ククに出たぬ、シンドローム)私らは自ら決めた
活動日程に追われただだだどれをこなすこと
みに窮々として、一つ一つの活動が念の目的とど
う繋がるのかあるいは参加することか個人たど
てどうなのかという内省を全くなぶりたして来
たのではなからうか。

ということ「皆様の発言をりたきたたいと考
ます。当会に何を期待して参加されたのか。とし
この期待に当会がよく答えているか。もしいな
いならどういうあり方が良しいか。
れざれど内部の恥を世間たさらさるくても良か
ろつと言われれる向きもあるかと思つ。しかし①
この種の問題は現在どの会もかかえていはずの
ものである。②我々は権威ある集団ではないし
「権威」を目指す集団でもない。だから「や、良
いのだ。我々は身の非才も顧みず福山の「文化」に
資することとを会の目的として広言してきた。「文化
とは何か」と言い出すとこの頁におさまらざるもな
い。ひとつのかやや性格ありまいる歴史カーリ
が内部のせめぎ合ひを通じて再生定着してゆくか
あるいはいつも成功をくりかえしつゝ衰退してゆ
くか、私らは全霊をこめて見せてやらねばならぬ。
このことは間違りなく文化的なものである。

送り先 福山市川口町38の3 種本実
期日 10月中旬まで(匿名可・記名も可)
※なお原稿の集り目録などは全くと載せられぬことと
させていただきます。原稿の取り扱いは「匿名可」の原則と
させていただきます。

TEL-1030(64X44)

桃太郎伝説

桃は悪霊を防ぐ呪力がある

那岐命が黄泉国から逃げて行く際に黄泉平坂の麓で桃の木から実を三つ取り黄泉軍をしりぞけたと記されています。一月十八日の各紙によれば奈良県の牧野古墳の横穴式石室から桃の種が鬼ツカリ古事記説話と関連があるかもしれないとされています。神霊が宿る果実として桃太郎が誕生したとの説があります。

岡山山の桃太郎 吉備津彦命の温羅征伐の伝承をもちに桃太郎の鬼退治の昔話ができたといわれます。又、岡山山の西を流れる笹ヶ瀬川の上流は有名な桃の産地であり桃太郎の桃が流れてきたという伝説にふさわしい地です。昔吉備の国に温羅という鬼がいて退治に来た吉備津彦命と合戦になる。吉備津彦の矢と温羅の石が空中で咬み合い落ちて矢喰宮、矢キズを負わされた温羅の血が川に流れ込んだ。血吸川、鯉に化けて血吸川に逃げた温羅を鵜となつて追いかけた吉備津彦が喰いあげた鯉喰神社、等々の伝承史跡があります。温羅が結した鬼の城は

昨二月例会で見学し又、築城の時期、目的等について山城志に当会会員の論文が載りました。か、昨十一月には城郭中央に兵糧、武器庫を支えていたとみられる礎石群が確認され新資料として注目されています。

岡山には桃太郎の銅像が、駅構内、駅前広場、郊外の金甲山にあり桃太郎誕生の地として印象付けています。五十一年より岡山市の代表的

春祭りとして岡山桃太郎まつりが行なわれている。高松市の桃太郎 当地の伝承は桃太郎、孝霊天皇の第八皇子、稚武彦命が鬼、瀬戸内海、海賊を退治したとの説によります。史跡としてまず鬼が島、文木島には奥行四五〇メートルの大洞窟、鬼が住んでいた大広間、監禁室、溜井戸の跡等があります。市内の鬼無町には桃太郎神社があり大猿キジを祀る神、おじいさん、おばあさんを祀る縁結びの神、桃太郎の墓などがあります。他、塚、天塚、祝宴をした平賀などの地名があります。宝物は大猿キジに分けてやりましたか桃太郎さんの分は

高松市の桃太郎まつりは桃太郎のお姉さんが押られている田村神社の恒例行事で、五十七年から毎年節分の日の前の日曜日に関催されるようになり、その他、愛知県の犬山市や東北・北陸地方にも桃太郎伝説があります。

あとかき 尾道に浦島太郎の伝承があることを新聞で知り各地の浦島伝説を調べ、同じようは親しまれてきた桃太郎伝説も岡山と高松について紹介させていたいただきました。お伽話と言ってしまうはそれまでですが、各地のそれをユニークな伝承に画一化されて語られていく絵本の話とは

象付けています。五十一年より岡山市の代表的

一味違つた面白さがあると思ひます。小生もテ
レビと共に育つた現代子ですが私達の遠い祖先
から語り受け継がれてきた伝承をさうに子や孫
へこの語り続けることは史跡等文化財の保護と共に
に大切なことではないでしょうか。

〔参考〕 太安万侶の古事記を作成した八世紀、
政府は国ぐに命じてその土地の産物や山や川
の名のいわれ、古くから伝る話などをクサアツ
めさせた。これは風土記といわれ、出雲国風土
記など五つが今も残る。現在失われている風土
記に引いても失われる前に原文の一部を別の書
物に引用してゐることで間接的に風土記の一部
分が分る。今はなき原文を風土記逸文といひ浦
島伝説は丹後国風土記逸文による。

〔余談〕 尾道の浦島伝説を取材に行つた際土
地の古老より次のような話を聞きました。
最近東京の某大学の教授が尾道市の文化財保
護委の人と来て申されるのに
秀吉が九州征伐に行く途中当地で茶を飲んだ
がその時手を洗つたつぼが現存してゐるとの資
料があるが知らないうちにこのこと又秀
吉は四国の大名の残党が襲撃を企立ててゐる
この情報で進路を変更したとす。
つぼの事は全く手がかりがなく教授はあきら
めて帰京したとす。

編集後記

おわり

飲んだくれの父を持つたいたいかな少女に似て

3頁でお伝えした如く現在会の全る事象が再検
討を必要とされてゐるにもかかわらざる何故か会報
のみがその責を云々されたりしい。私たちがほか
の批判を土台に上野構造の区別もつかぬ言として
固き流してきたが最近発行された「備陽通信」は
「会報とはおやうもんですよ」というひとつの
意志表示として私らは受けとめる。事情通の中に
は「おし」とこれは旋破りの逆会報だ、「おし」と古館
伊知郎はりに嬉こんごる向きもあるうが仲々プロ
レス界の如く全面戦争には突展しないのだ。何故
なら私達はこの会報が最後のふみ止まるべき場所
だとは少しも考へてゐないから。

それでもこの前の編集会議では珍しく「会報の
役割と使命」ということをシビエた話し会つてみ
ようとしたのだが五分もたない内に「もうやめ
ようぜ。やはは」ということになつてしまつた。
基本的には「おわり」四人組しなのだ。

会報は会と無関係であつていいはずはない。し
かしこの関係のとり様はひと通りではあるまい。
私らは現在会活動からはちよつといふ、た位置に
ありたいと思ふし、それはそれなりの根拠がある
のだ。あせらず気長にやつてゆこう。時として会
報がつまらないうことがあつてもそのことが我々の
選択とものた由來するの否か。まだ答への出
る段階ではあるまい。(ここで終れば良いものをま
たまた地足ですが)実はこの文章のメインテーマは
冒頭の題の中にある。しかしこのココロは「
おし」と「旋破の解」はギヤの旋破りだ。おし(思)